ATSUGI SYMPHONY ORCHESTRA
Since 1977

“厚木交響楽団 友の会”通信

厚木交響楽団
http://www.atsukyo.com

第33号／2017年4月

発行者：厚木交響楽団 友の会事務局

（1979年5月　第1回定期演奏会）

春、また美しい芽吹きの季節が巡って参りました。そして「厚響友の会」も新年度がスタートします。
今年も会員の皆様のあたたかいご支援に感謝し、事務局一同頑張って参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、厚木交響楽団は今年創立40周年を迎えます。そこでこの1年を通しての特別企画として、現団長の神崎和夫さんにこの誌上で「厚木交響楽団の歴史」について語ってもらうことにいたしました。
神崎さんは1977年、出来たばかりの厚響に入団し、まもなく2代目団長となってからは、それ以後今日までずっとその重責を担い続けてこられました。厚響と共に歩んで来た氏の存在そのものが「厚木交響楽団の歴史」かもしれません。
これからの3回シリーズにどうぞご期待ください。

神崎団長が語る 厚木交響楽団 40年の歩み

Part Ⅰ：団創立から20年の歩み

厚木交響楽団は、神奈川県下で、横浜、川崎、横須賀、鎌倉、藤沢、小田原6市のアマチュアオーケストラの設立から15年遅れて県央地区のオーケストラとして、1977年12月厚木市に誕生しました。私が入団したきっかけは、1977年の12月に「厚木市民交響楽団結団式！」の新聞記事（神奈川新聞社）を見た事で，大学のオーケストラ部で知り合った妻（ヴァイオリン）と共に入団しました。（私はファゴット）

当時の練習風景

当時の練習場所は旧厚木北公民館（厚木市松枝町）の木造の体育館で、とても古い建物で窓ガラスも所々割れていて、天井の照明も暗く冬にはストーブ2台のみが唯一の暖房でした。（練習時には譜面が読めるように体育館の2階から追加のライト3台により照明を増やしました。）団員数は約30名、そしてティンパニ等の打楽器は厚木市民吹奏楽団の練習が終了した後に、借用しました。そのためオーケストラの練習開始時間は日曜日の夕方5時以降となり現在まで受け継がれています。

第一回演奏会のチラシ

創立当初は「厚木市民交響楽団」の名称でしたが、第1回の定期演奏会(1979年5月)からは「厚木交響楽団」と改称し現在に至っています。
初代の指揮者は、坂本朝六先生（故人・元N響トランペット奏者）でした。坂本先生の熱意により誕生した念願のオーケストラの記念すべき第1回定期演奏会でした。

結団後の翌年の1978年には厚木市文化会館が開館し11月には落成記念文化祭に参加しました。そして第2回定期演奏会（1979年12月）からは厚木市文化会館大ホールでの演奏会を開催することが出来ることになりました。第2回定期演奏会に向けての練習から藤田由之先生（音楽評論家）に音楽監督および常任指揮者をお願いし、第48回の定期演奏会（2002年12月）までの23年間の長きに渡りお世話になりました。

特に藤田先生のご尽力により沢山の著名なソリストとの協演も実現することが出来ました。ご来場いただきましたお客様に、厚木交響楽団の演奏会をより楽しんで頂きたいとの思いからプログラムに著名なソリストとの共演による多数の協奏曲を取り上げました。
出来たてのアマチュアオーケストラでありながら、このような共演の機会を与えて頂きました藤田先生には大変感謝しています。素晴らしいソリストの方々と協演することにより、（続く）

オーケストラのメンバーも貴重な経験ができ、大変勉強になったと思っています。藤田先生のご紹介で協演させていただきました久保陽子さんが、オーケストラとのリハーサルにオーバーコートを着てヴァイオリンを弾いて下さったことは寒い練習会場の忘れられない思い出となりましたが、1982年には現在のパートナーセンターが「厚木市婦人会館」としてオープン。練習会場が冷暖房完備の新築の建物に移りとても嬉しかったのを覚えています。続いて1985年2月には厚木シティプラザも開館しました。

1983年12月25日の第10回定期演奏会で堤　剛さんとドボルジャークのチェロ協奏曲を協演する事が決まった時、当時の大山副団長から、「チェロ協奏曲のヴァイオリンソロを弾いて下さる素晴らしい方を見つけました。」との朗報がありました。それが現在も我が団のコンサートミストレスをしていただいています天野克子さんと厚木交響楽団の出会いでした。その日から今日に至るまで情熱溢れるヴァイオリニスト天野克子さんのご指導の下、厚木交響楽団は、揺るぎなく演奏活動を続け、大きく成長し続けています。この素晴らしい運命の出会いに大変感謝しています。

1985年頃からは、厚木交響楽団の自主公演ばかりでなく厚木市主催の市民文化祭の他に厚木市制30周年記念演奏会への参加、小中学校からの依頼演奏会もありました。1990年からは、「厚木交響楽団ガラコンサート」、「ニューイヤーガラコンサート」、「スプリングガラコンサート」を厚木市文化会館が主催し、その演奏会に参加することが出来ました。
また、厚木市文化会館と昭和音楽大学共催による日伊音楽文化交流「ロッシーニフェスティバル」では イタリアの指揮者エンリコ・マッツオーラ氏と協演。とても貴重な体験となりました。

1994年には厚木合唱連盟の創立15周年記念演奏会への参加等を通して他団体との協演も増え、そのことが現在も、2年毎に行われている「厚木市民芸術祭」での「第九」、「レクイエム公演」、「メサイア公演」等で厚木合唱連盟の方々との協演ができる公演への始まりであったと思っています。1995年、1996年には県アマチュアフェスティバルオーケストラの演奏会もあり、他のアマチュアオーケストラとの交流もありました。

たくさんの演奏の機会と多くの方々との出会いに恵まれ厚木交響楽団は大きく成長しあっという間に20年の月日が流れていました。1994年には楽器運搬用にトラックを購入、大きな楽器の管理運搬がとても楽になり備品も充実してきました。厚木交響楽団を応援して下さる全ての皆様に、心から感謝しています。ありがとうございました。

厚響を大きく育てて下さった藤田由之氏
（山口前市長、先生の奥様と共に）

～20 周年までに定期演奏会、ガラコンサートで共演していただいた主なソリストの方々（敬称略）～

ピアノ	弘中孝、練木繁夫、伊藤恵、寺田悦子、花房晴美、神谷郁代、 楊麗貞、小川典子、津田真理、ポリー・フェルマン、加古隆
ヴァイオリン	久保陽子、佐藤美代子、和波孝禧、清水高師、藤原浜雄、 前橋汀子、渡辺玲子、漆原朝子
チェロ	堤 剛、倉田澄子、菅野博文、安田謙一郎
木管楽器	青山聖樹（オーボエ）　金昌国、山形由美（フルート） 松代晃明　（クラリネット）
その他の楽器	芳志戸幹雄、福田進一（ギター）　和谷泰扶（ハーモニカ） 菅原淳（ティンパニ）　吉野直子（ハープ）　姜建華（二胡） 宮田四郎（ホルン）
声楽	斉藤昌子、秋山恵美子、澤畑恵美、崔岩光、郡愛子、斉田正子（ソプラノ） 西明美（アルト）　勝部太（バリトン）

次号は「厚木交響楽団40年の歩み」PartⅡ：団創立20年から30年までの歩みを掲載予定です。

「メサイア」
2016年12月11日　厚木市文化会館

「ニューイヤースペシャルコンサート」
2017年1月14日　♥やまと芸術文化ホール
15日　◆海老名市文化会館

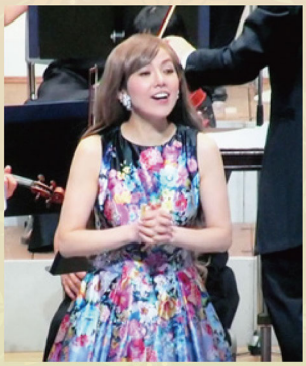
～公演 Shot 集～

あつぎ市民合唱団の皆さんと

メサイアで唯一の金管楽器
トランペットのお二人

チェンバロ（左）とオルガン
共に「いい味」出していました

歌のソリスト４人は厚木ゆかりの方々

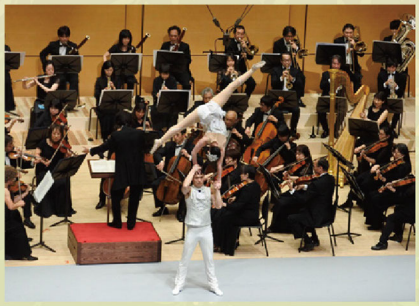


◆艶やかなソプラノ森 麻季さんの
「わたしのお父さん」

◆大和市内バレエアカデミーの生徒さん達
による華やかな「春の声」

◆アメリカでご活躍中の
バス歌手 崔宗順さん（兄）

♥バリトン歌手の崔宗宝さん（弟）
トークもやります



♥山東省雑技団のペア
信じられない程の柔軟性！

◆パーカッションチームも大活躍
「雷鳴と電光」「白鳥の湖」

◆本当に肩の上で舞っています
「白鳥の湖」

◆全員そろっての華やかなフィナーレ

第77回定期演奏会には、ブルックナーの大曲「交響曲第8番」が登場します！
「ブルックナー?なんだか馴染みがないなあ」「とにかく長くて･･･重い?」なんて思っている方、いらっしゃいませんか?
そんなあなたのために、今回の客演指揮者 長野力哉先生がブルックナーの魅力について語ってくださいます。

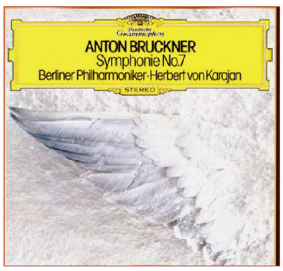
先生は、2年前日本ブルックナー交響楽団（事務局 岡田も参加）を率いて、ベルリンにて「交響曲第5番」の演奏会を成功させましたが、その後 ご自分の名を冠したオーケストラを組織され、ブルックナーの交響曲を第1番から順に演奏するという企画に取り組んでいらっしゃいます。なぜ先生がそんなにもブルックナーに惹かれるのか、こちらも大いに気になっておりました。

さてさて、どんなお話が伺えますでしょうか?

～Maestro 長野が語る～

ブルックナーの魅力

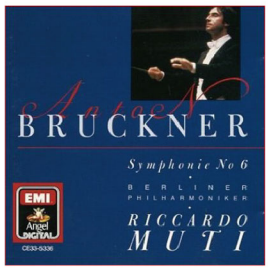
今回厚響の皆さんと**ブルックナーの8番**を演奏する機会に恵まれ大変に光栄に思っています。8番は楽器編成が大きく名曲ですが 簡単には選曲の候補にも挙げられない曲です。僕は今回指揮するのが初めてです。
そしてこの場をお借りしてブルックナーについてお話する機会もいただきましたので、これまで接してきた巨匠たちの演奏などを中心に振り返ってみたいと思います。



はじめてブルックナーに出会ったのは、**1975年**にFMで放送された**交響曲第７番**でした。最盛期の**カラヤン、ベルリンフィル**の演奏でした。高校生の自分はオープンリールに録音したその演奏を繰り返し繰り返し何度聴いたか分かりません。この時、ブルックナーの音楽に強く惹かれたのを契機にFMやレコードで5番、4番、8番、9番と聴いていったのですが、どの曲もその全体像を把握することは出来ませんでした。しかし一方で、忘れられないフレーズが心に残りました。とりわけ8番の3楽章に現れるハープと弦楽器の織り成す音楽は、日常から遠く離れた夢のような世界に自分を誘いだしてくれました。
そして４楽章冒頭のティンパニーから迸り溢れ出るパワーに鼓舞されました。

桐朋学園オーケストラでは多くの曲を学ぶ機会を得ましたが、ブルックナーには出会いませんでした。先生方が音大のオーケストラの教材には相応しくないと思ったのでしょうか。思い返せば指揮のレッスンでブルックナーが課題になったこともありませんでしたし、レッスンでブルックナーを振った学生もいなかったと思います。（マーラーもいませんでしたが…）僕の中でブルックナーは遠い存在でその他大勢の作曲家と同列にありました。

ブルックナーが身近になり、括目したのは**ベルリン遊学中**でした。
当時の**ベルリンフィル**は最晩年のカラヤンが率いていてオーケストラのプログラムは大きくドイツ系音楽に傾いており現在のようにあれもこれも演奏するというオーケストラではありませんでした。**ムーティ**が**ブルックナーの6番**を指揮をしました。それまで6番は聴いたことがなく事前に勉強するのも億劫な気持ちがありましたが、初日のリハーサルで完全にこの曲の虜になってしまいました。1、4楽章の男性的な力強さと推進力、2楽章のたゆたう抒情。ムーティとこの曲の相性も抜群によかったと思います。しかしこの時同時にブルックナーの曲の複雑さも知りました。ムーティが曲のある箇所をどのように指揮しているのか理解できなかったのです。



天才的な指揮者の指揮法というのは分析を受け付けないこともあるにはあるのですが、然は然り乍らという思いもあり帰宅後勉強し直して翌日午前のリハーサルでは目を皿のようにしてムーティの指揮ぶりを観察しました。しかしやはり理解できませんでした。当時のベルリンフィルのリハーサルは演奏会前日と当日の午前だけでしたので、次は演奏会本番です。本番は2回あり、両方の演奏会を聴きましたが結局分からず仕舞い。

当時この他にも**マゼール、バレンボイム、シャイー、ラインスドルフ、マズア**などの指揮するブルックナーに接しましたが、次第に自分の中ではっきりと意識されはじめたことがありました。それはブルックナーを演奏する時 オーケストラの**弦楽器**は明らかに普段と**様子が違う**という事でした。彼らは他の作曲家では見せないほどに激しく燃え上がり、盛り上がっていました。その姿はただ単に金管に対抗して奮起しているとは言えないものでした。こうした様子は日本ではまったく見たこともなく、体験もしなかったし、想像もできませんでした。金管の咆哮、コラール、オルガンの響きこそがブルックナーの交響曲とばかり思い込んでいた自分は目から鱗が落ちる想いでした。ブルックナーの交響曲は**弦楽器の音楽**だったんだ。そう思いました。

カラヤンの追悼コンサートでは**ジュリーニ**が**ブルックナーの9番**の指揮をしました。
大きな悲しみに身を任せ、深い湖の底を漂うような演奏に聴き入りました。
チェリビダッケ指揮**ミュンヘンフィルの8番**はミュンヘンでのリハーサル、ベルリンでの演奏会を聴きました。そのゆったりしたテンポの演奏は２０代の僕にはなかなか厳しいものでした。聴いているだけでもとても集中力が保てなかったのです。後日放送されたものを録音して聴いてみると、その精緻な音作りは微視的なところまで磨き上げられた驚くべき演奏で、改めて感心させられました。ジュリーニがロサンゼルスフィルとベルリンに来て演奏した8番もまたゆったりとしていました。弦楽器がよく鳴っていたのが印象的でした。

それまで自分がブルックナーをあまりにも理解していなかった事、日本では周囲もまたどこかブルックナーを敬遠してるように思えた事が逆に、これから是非ブルックナーをやってみたいと強く思う動機になりました。

一昨年天野先生、厚響有志の方々とベルリンの教会で５番を演奏しましたが、大きな発見がありました。書かれた音符はどのくらいの長さで演奏され収められるのがよいのか、そしてテンポは。すべてはその場の響きによるというチェリビダッケの言葉の通りでした。ブルックナーは他の作曲家にはない**会場の残響をイメージした音符と休止符**を書いていて、これは教会での響きを体験して初めて気付かされました。それを知らなければただ時間だけのテンポや音価に固執することになってしまうわけです。今年は3月にベルリン市の隣りポツダム市の教会でやはり天野先生をコンミスとしてブルックナーの３番を演奏して参ります。今度はどんな響きになるのか楽しみです。将来的にはブルックナーの眠るオーストリアのザンクトフローリアン教会での演奏会も実現したいと思っています。

ブルックナーの音楽には神経質に尖った部分がありません。**おおらかで鷹揚**としています。
雄大に堂々として力強い一方で、己を主張せず、主張できず、どこかしらにもどかしさも抱える美しい旋律。
ブルックナーの魅力は尽きません。

長野 力哉

※この原稿は２月中にお寄せいただいたものです。CD の写真も提供していただきました。

今後の演奏会
予 定

厚木交響楽団 創立40周年 記念公演シリーズ

（全３回）
会場：厚木市文化会館 大ホール

40th Anniversary

第1弾

●第 77 回 定期演奏会

2017 年 4 月 23 日（日）14:00 開演

指揮／長野 力哉（客演）
ワーグナー 「ローエングリン」より第１幕への前奏曲
ニーノ・ロータ トロンボーン協奏曲 ハ長調
独奏／郡 恭一郎（シエナ・ウインド・オーケストラ）
ブルックナー 交響曲第８番 ハ短調 作品 108

第2弾

●第 78 回 定期演奏会

2017 年 9 月 18 日（祝・月）14:00 開演

指揮／柴田 真郁（客演）
ベートーヴェン 「エグモント」序曲
アルチュニアン トランペット協奏曲 変イ長調
独奏／長谷川 潤（読売日本交響楽団 主席奏者）
ラヴェル ボレロ
ベートーヴェン 交響曲第５番 ハ短調「運命」

第3弾

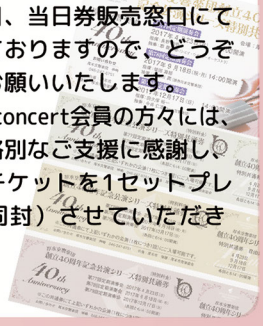
●第 79 回 定期演奏会

2017 年 12 月 17 日（日）14:00 開演

指揮／田久保 裕一（客演）
ホルン協奏曲（曲目未定） 独奏／今井 仁志（NHK 交響楽団）
ベルリオーズ 幻想交響曲 作品 14 他

記念公演シリーズ 特別共通券 制作・販売のお知らせ！

この度、創立40周年を記念して特別チケットを制作いたしました。3枚綴り2,500円で、記念演奏会3回の内 いつでも何枚でも自由にお使いいただけるお得な回数券です。
会員の皆様には通常通り、各演奏会ごとに招待券をお送りいたしますが、それとは別に、記念にこのチケットを購入されご家族やお知り合いの方にも厚響をご紹介いただけたならこんなに嬉しいことはありません。
演奏会当日、当日券販売窓口にて取り扱っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
symphony,concert会員の方々には、日ごろの格別なご支援に感謝し、今回このチケットを1セットプレゼント（同封）させていただきます。



今回から新しく、友の会事務局の西尾尚さんによるミュージックコラムがスタートいたします。
実は、友の会を立ち上げ最初の４年間通信の制作にあたってくれたのが彼なのです。ここでまた古巣に復帰して、楽しく気軽におしゃべりしてもらうことにしました。題して･･･

インペク【にしお】のつぶやき

今号よりコラムを担当することになりました【にしお】と申します。友の会の事務局も担当させていただいておりますので名前だけはご存じの方も多いかと思います。厚響歴25年強･･･アマオケ歴は30年以上になります。そんな私が、触れてきた音楽、アマオケやクラシック界の裏側をつぶやいてみたいと思いますので、どうかよろしくお付き合いください。

“インスペクター”って何?

私は、厚響において“インスペクター”という役割を担当しております。そもそも“インスペクター”って業界用語っぽいですが、いったい何ぞや？インターネットで検索してみますと…「オーケストラの運営をスムーズにするための、リハーサルの管理や演奏に関わるところの進行マネージャー。 楽員に対しては、指揮者やフロントの意向の伝達者であったりし、立場としては指揮者と楽員のほぼ中間的な役割。」
プロのオケでも事務局(場合によっては楽員)に置かれているようです。それぞれの団体で業務に違いがあっても基本的には指揮者・ゲストと楽員・オケの間に立った雑用係といったところでしょうか。
私は、指揮者やゲストの方が「また厚響で演奏したい」と思っていただけるよう、また逆に団員に「この指揮者にまた振ってもらいたい」と思ってもらえるように願いながら務めております。この信頼関係の積み重ねが、お客様に何度も演奏会に足を運んでいただくことにもきっと繋がると信じながら。

やっぱりカラヤン!!

子供の頃、すでにカラヤンは大スターでした。カラヤンの指揮したLPレコードが実家のレコード棚の半分くらいあったのでは?少年【にしお】は、譜面も見ずに目を閉じてちょっと手を動かしただけで“バーン!!”とオケが鳴る様(実際には見ていない、レコードジャケットやテレビで見ただけ)に「すげぇー」と思ったものです。
高校生になり、音楽に対しても反抗期を迎えクラシックを離れてロックバンドを追いかけたりした時期…を経てクラシックに戻った時も「カラヤンて商業的で嫌!!」みたいな感じでしたが、ある程度スコアを理解できるようになって改めてカラヤンの演奏を聴いてびっくりしました。音符の長さや間の取り方が譜面通りなのです。自分が次回の演奏会に向けて取組んでいる曲を勉強するにあたってこんな素晴らしい教材はないと気付いたのです。今またカラヤンのCDが棚に並ぶようになったことは言うまでもありません。

（初回なので、いっぱいつぶやいてくれました!）

“音楽”を楽しめてますか？

私がアマチュアオーケストラを始めたのは大学時代からなのですが、それまでと明らかに音楽の聴き方が変わってしまいました。「ああ、心地よい響きだな」、「なんと美しいメロディ」みたいな感覚から「あぁここ難しいよなぁ」、「あっ、○○パート演奏ミスしてる」に…特に演奏会を聴きに行ったときなどまるで自分がステージにいるような感覚でハラハラドキドキ、楽しめていませんね(苦笑)。それまではスコア(総譜=指揮者用の譜面のこと)を眺める(決して読めてません)ことなんてなかったのに、オケに入ったばっかりに自分のパート以外のことにも関心をもってしまうんですね。
自分が一番嫌だなと思うのは、たとえば今自分がリハーサルをしている曲の、その解釈やテンポや奏法が違う演奏を聴いたりすると「否」と思うことがあることです。なるべくフラットな気持ちで音楽を楽しめるよういたいものですが…なかなかねぇ。

追悼・スクロヴァチェフスキ氏

ポーランド人指揮者のスタニスワフ・スクロヴァチェフスキ氏(1923-2017)をご存知の方は少ないかもしれませんが、今年2月21日に93歳で天寿を全うされました。ポーランド生まれ、11歳でピアニストとしてデビューした神童でしたが、第２次大戦中の空襲で手を負傷したため、指揮と作曲の道に専念した苦労人でもあります。晩年になるまで録音が少なく日本での演奏活動も70歳を過ぎてから盛んになったため、なじみの少ない巨匠のひとりですが2007-2010読売日本交響楽団の常任指揮者も務めました。
2011年私は東京オペラシティホールで氏の演奏に接する機会がありました。モーツァルト交響曲41番「ジュピター」とブルックナーの4番「ロマンティック」。ジュピターの第1楽章では長旅の疲れかオケの響きがギクシャク。きれいなハ長調(ドミソの和音)が響いてきません。それでもだんだんと調子が上がってきて第4楽章のフーガは美しく壮麗でした。ブルックナーに至っては本当にホール全体がオルガンの響きの中にいるようでした。短い時間の中でオケを立て直し最後にはものすごい感動を紡ぎだすその力に感動しました。
氏の最後の演奏は、2016年10月ミネソタ管弦楽団を指揮してのブルックナーの交響曲第8番だったそうです。そのブル8に今回私達は挑戦いたします。私達厚響のブル8が天国のスクロヴァチェフスキ氏に届きますよう･･･。心よりご冥福をお祈りいたします。

事務局より

- 以前から厚響には後援会組織が有ったのですが、現在のような形に整えられ「友の会」として再出発したのが2007年の春のことです。ですからこちらも、今年は発足10年の節目の年にあたります。ここまで続けてこられたのは、ひとえに私達をご支援くださる会員の皆様のおかげでございます。あらためて心からの感謝と御礼をお申し上げます。
- 40周年記念の企画の一つとして、今年は金管楽器の協奏曲シリーズをご用意いたしました。第1弾はトロンボーン協奏曲ですが、それ自体がたいへん珍しいもので、加えて「ニーノ・ロータ」作曲！？そうです、あの名画『太陽がいっぱい』や『ゴッドファーザー』の音楽を担当した人ですね。ソリストの郡恭一郎さんは、日本中のブラス愛好家から慕われる名奏者でいらっしゃいます。当団にも練習時から熱い眼差しで見つめる団員の姿が・・・どうぞ、トロンボーンという楽器の音色をたっぷりとお楽しみ下さいませ。
- 前のページでもお知らせいたしましたが、第77回定期演奏会のご招待券を同封いたします。加えてconcert以上の会員の皆様には、3枚綴りの記念チケットも進呈させていただきます。4月23日、いつもの厚木市文化会館でお待ちいたしております。

（事務局　岡田史子）